

ナショナル・ユース オーケストラ

大阪公演

USA

National Youth Orchestra of
the United States of America

全米・若手・
精鋭・集結!



[指揮] **ジャンンドレア・ノセダ**

カルロス・サイモン: 祝典序曲

(ボストン交響楽団・カーネギーホール共同委嘱新作)

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

ラフマニノフ: 交響曲 第2番 ホ短調 op.27

[ヴァイオリン]

レイ・チェン

[管弦楽] ナショナル・ユースオーケストラUSA

2025 **7.24** (木) 19:00開演 (18:00開場)

S 8,000円 A 6,000円 B 3,000円 (全席指定/税込)

ザ・シンフォニーホール

主催: ザ・シンフォニーホール

ご予約・お問合せ

■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonihall.jp>

プレイガイド

■ E+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonihall> (パソコン・携帯)

■ ローソンチケット <https://t-tike.com/symphonihall> [Lコード: 54730]

■ チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonihall/> [Pコード: 282-418]

詳しい内容はこちら ▶



*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

ジャンンドレア・ノセダ 指揮

ナショナル・ユースオーケストラUSA 大阪公演

全米・若手・精鋭・集結!

音楽家ならずとも、誰もが夢見るクラシック音楽の殿堂、カーネギーホール。かつてはニューヨーク・フィルハーモニックの本拠地だったこともあり、クラシック音楽を中心にジャズやポップスなど幅広いジャンルのコンサートを行い、教育プログラムや後進の指導にも熱心なホールとして知られている。その中の一つ、ウェイル・ミュージック・インスティテュートは、全米から選りすぐりの若い音楽家(16歳~19歳)を集めて、毎年夏にナショナル・ユースオーケストラUSA(NYO-USA)を結成している。厳しいオーディションを経て、全米のトップ・プロ・オーケストラの首席たちの指導を受けたNYO-USAのメンバーは、カーネギーホールで演奏するだけでなく、世界の主要な都市を音楽大使として訪れ、文化交流を図り、自らの将来の為に国際経験を身に付けている。そんな彼らが2025年7月に初来日を果たし、大阪と東京で演奏会を開催する。大阪はザ・シンフォニーホールで、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲やラフマニノフの交響曲第2番などを演奏する。指揮は世界各地のオーケストラや歌劇場からオファーの絶えないジャンンドレア・ノセダ。ヴァイオリンは人気と実力を併せ持つレイ・チェン。最高の組み合わせによるエネルギー溢れる演奏が、今から楽しみだ。

文 磯島浩彰



[指揮] ジャンンドレア・ノセダ Gianandrea Noseda, Conductor

ジャンンドレア・ノセダは、同世代の指揮者の中でも先頭に立つひとりとして広く認められている。2016年1月にワシントン・ナショナル交響楽団の第7代音楽監督に指名された。その他、ロンドン交響楽団とイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、カダケス管弦楽団の首席指揮者、イタリアのストレーザ音楽祭の芸術監督も務めている。また、2021-22シーズンよりチューリッヒ歌劇場の音楽総監督に就任。

ノセダは世界の主要なオペラ・ハウス及びオーケストラで頻繁にゲスト出演しており、その中にはメトロポリタン・オペラ、クリーヴランド管弦楽団、スカラ座、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ロイヤル・オペラ・ハウス、ウィーン交響楽団、チューリッヒ・オペラが含まれる。2015年にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と初共演し、また同年のザルツブルク音楽祭にもデビュー。

ミラノ生まれ。イタリアの芸術界に対する貢献により、イタリア共和国功労勲章《カヴァリエーレ・ウッフィチャーレ》を授与されている。2016年国際オペラ賞の「今年の指揮者」受賞。同年ストックホルムにおいてノーベル賞コンサートを指揮する名誉を受けた。



[ヴァイオリン] レイ・チェン Ray Chen, Violin

21世紀のクラシック音楽家の定義を変えるヴァイオリニスト。

現代テクノロジーによる新しい機会を活用し、ソーシャル・メディアに登場することで、アーティストとファンとの新たな関わり方を示す先駆者となっている。

台湾に生まれ、オーストラリアで育つ。15歳でカーティス音楽院へ入学。2008年ユーディ・メニューイン国際コンクールと2009年エリザベート王妃国際コンクールでの優勝をきっかけに、注目を浴び始め、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、オーストラリアでキャリアを築いている。2017年にデッカ・クラシックスと専属契約。これまでに、ロンドン響、ゲヴァントハウス管、ミュンヘン・フィル、ニューヨーク・フィル、サンフランシスコ響等と共演。また、シャイー、V. ユロフスキ、M. ホーネック、K. ペトレンコ等の指揮者と共演している。2012年から2015年まで、ドルトムント・コンツェルトハウスのレジデントを努め、2017/2018シーズンは、ベルリン放送交響楽団の「アーティスト・フォーカス」の一人となった。音楽教育に対しても非常に献身的で、音楽とコメディを組み合わせたビデオ・シリーズを自ら作製し、音楽を志す学生たちの教育に役立てている。

[管弦楽] ナショナル・ユースオーケストラUSA National Youth Orchestra of the United States of America

NYO-USAの演奏は、「活力と自信に満ち溢れている」とニューヨーク・タイムズ紙に絶賛された。毎年恒例のカーネギー・ホールでのコンサートに続き、NYO-USAは、ツアーでアジア、ヨーロッパ、中南米、そしてアメリカ合衆国を訪れている。2013年より、オーケストラは、ロンドンのBBCプロムス、北京の国家大劇院、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ハンブルクのエルブフィルハーモニー、ソウルのロッテ・ホール、ルツェルン音楽祭、ブエノス・アイレスのテアトロ・コロン他の多数の世界の主要な音楽祭や舞台に招かれている。創設以来、10年以上にわたり、マリン・オールソップ、エマニュエル・アックス、ジョシュア・ベル、サー・アンドリュース・デイヴィス、ジョイス・ディドナート、ダニエル・ハーディング、サー・アントニオ・パッパーノ、カルロス・ミゲル・プリエト、デイヴィッド・ロバートソン、ギル・シャハム、ジャン＝イヴ・ティボーデ、マイケル・ティルソン・トーマス、そしてアリサ・ワイラースタインなどの並外れた指揮者やゲスト・アーティストたちと共演している。

